

# JR東海労ニュース

No. 715

2005年7月11日

JR東海労働組合

## 真夏日が続く！ 開襟シャツの貸与を！

間もなく梅雨が明けます。真夏が到来します。異常気象の連続で暑さも予想以上となりそうです。いま愛知万博で夏期多客輸送前ではありますが、臨時列車を多く運行しています。社員の年休取得も大きく抑制されています。会社は必要な要員を配置せよ！取締役や執行役員を増やしてばかり、おかしい。利益を上げている源は現場第一線の労働者です。

本部は、第18回定期大会の決定を受けて、6月30日に本社に対して「乗務員及び駅社員に開襟シャツの貸与、着用に対する申し入れ」を提出しました。これまで幾度となく、協約改定の団体交渉において、JR東海労は乗務員及び駅社員の夏期における制服を開襟シャツにすることを申し入れてきました。しかし、会社は「接客社員の制服は明るさ、親近感、清潔感をお客様に与えるというJR東海のイメージを大切に考えており、開襟シャツの導入やネクタイの省略は考えていない」と繰り返してきました。しかし、いまや政府をあげて「クールビズ」を推奨しています。この機会は開襟シャツの導入のチャンスではないですか。現行の制服で汗たらたら接客と開襟シャツでは、どちらを不快に感ずるかは明らかではないですか！机上で理屈をこねるのはやめて下さい。早く応えて下さい！

乗務員と駅社員に  
開襟シャツを！